

第一部 年間の諸行事・諸活動と教育事業・研究活動・社会貢献活動等の成果

I 大学共通事項

1 教育事業

<学部学科の新設および再編>

・新学部（コミュニティ政策学部）開設準備

新学部は届け出申請可となったことから、4月30日に文部科学省に届け出を行った。5月より新学部設置準備室を磯岡哲也氏を開設準備委員長とする開設準備委員会に組織替えした。新学部の申請内容の特徴は履修単位制限を設け事前・事後学習の時間を担保すること、専任教員は設置基準を上回る16名とすること、1クラスあたりの学生数を明示したこと、履修モデルを示し体系的な学習を促すものとしたことなどであった。6月30日付で設置申請が認可され、学生募集活動を開始した。

・学生生活実態調査の実施

5回目になる学生生活実態調査が全学部を対象に学生生活実態調査委員会により11月中旬から12月初めにかけて実施され、報告書が作成された。アンケートに答えた学生の割合は学部により異なり50%弱～70%弱であった。大学全体の満足度は64.1%であり、大学を選択した理由、将来就きたい仕事にあった勉強の実現率などで看護学科と社会福祉学科が高い傾向にあった。一方授業への参加状況については7割から8割の学生が予習も復習もおこなっていないと回答し、主体的に学習していない傾向が浮き彫りになった。報告書は専任教員全員に配布すると同時に、Webに掲載される。

・ベストティーチャー賞の設定

学長の提案により教育の質的向上、活性化を促す方策のひとつとして今年度よりベストティーチャー賞を設けることが決定され、授業・ゼミの指導・実習指導・就職支援・課外活動・学生の相談への対応などを総合して一位の教員を、学部単位で学生アンケートによって選出することとなった。11月に学部ごとに学生アンケートが実施された結果、第一回受賞者は、総合福祉学部川真田喜代子氏、看護学部渡邊弘美氏、国際コミュニケーション学部白寄まゆみ氏の3名となり、賀詞交歓会で表彰した。

・GPAの大学共通化

GPAを大学全体で統一したものとすることが大学教務委員会において決定し、平成22年度入学生より評価をS,A,B,C,Dの5段階とすること、SからDを4点から0点とし、各単位数を掛けた合計点を総単位数で割ってGPAのスコアとすることになった。

・入学時共通学力検査に関する検討

学長より80%の学生が学力検査を経ずに入学している現状から、新入学生の学力的な問題を明らかにし、それに対応した教育を行う必要があるとして入学時共通学力検査を検討する指示が出され、検討委員会を立ち上げ継続的な検討が行われた。その結果、各学部がそれぞれの教育目標に応じて、必要な学力の測定をカリキュラムに組み込んでいる現状から、しばらくは学部ごとの実施を継続し、大学共通学力検査はその評価を見定めてから再度検討することとなった。

<国際交流事業>

・天津大学一行の表敬訪問

日中大学展及び大学フォーラムへの出席により来日する天津大学院長他6名が1月28日に千葉キャンパスを表敬訪問され、本学として歓迎会を催した。

2 社会貢献活動

・地域支援室活動（地域支援ボランティアセンター含む）

1) 21年度活動報告

①災害支援活動

- ・「救急法講習会（AED 取扱い含む）」6月27日ボラセンと消防隊の合同開催。
- ・「岩手・宮城内陸地震」被災地支援ボランティア春季合宿（第3回目）
震災から1年目の慰霊祭に参加。学生ボランティアによる手作りアロマ・キャンドルを100個、栗原市花山地区・栗駒地区の仮設住宅に届けた。
6月13日～14日（宮城県栗原市）
参加者計20名学生19名（千葉12名・みずほ台4名・短大1名）、教職員1名

②募金活動について

- ・中国地方・九州北部豪雨災害救援募金 68,001円
8月17～18日 JR 蘇我駅、8月20～21日 JR 千葉駅の各駅にて募金活動。
日本赤十字社千葉県支部を通じ被災地に届けられた。

③救急救命法講習会（AED 及び心配蘇生法）

- ・6月27日 会場：日本赤十字社千葉支社（参加学生20名）

④季刊誌「ボランティア@」9号～12号まで発刊

⑤地域連携ボランティア活動

- ・ロッテマリーナズとの包括協定による、特別プログラム「淑徳大学スペシャライター」の企画・運営。9月9日
- ・「千葉市ゆうあいピック（公認欠席）」5月20日 参加学生88名（昨年61名）

⑥淑徳大学ボランティアサークル連絡会（通称：淑ボ連）の運営。

⑦常任支援学生による「ボランティア論」（5月27日5時限）講義の企画・実施。

⑧ウインターセミナー（12月20日）における新入学内定者に対する全てのプログラムの企画および実施（案内誘導からアイスブレイクまで）。

⑨第2回防災フェア2009（煙体験・消火訓練・応急手当・起震車、非常食体験）を千葉市消防局、千葉市防災普及公社の協力を得て企画・開催。12月10日

⑩日本赤十字社千葉県支部に千葉県青年赤十字奉仕団に淑徳大学分団として加盟、日本赤十字社の様々な活動を支援・協力。

⑪災害支援活動と地域支援活動の観点から、本学の学生・教職員と大学周辺の住民の安心と安全を守るため、「学生消防隊」を創設し、この隊員らが「千葉市消防団」に学生消防団員として参加。

2) 22年度年間計画について

- ・基本的には21年度の内容と同じ
救急法の講習会、AED講習会、献血協力、非難訓練、大学祭協力、季刊誌（@マー

- ク) の企画・編集・発行
- ・新しい試みとして
淑徳大学学生防犯パトロール隊の企画・運営。
ゆめ半島千葉大会 2010 (第 10 回障害者スポーツ大会) へのボランティア参加。

3 その他

・認証評価申請について

4月の大学協議会において平成23年度に認証評価を受けることの確認がされ、その後(財)大学基準協会による認証評価を受けることが決定した。田中秀親学長特別補佐を委員長とし、3学部長、研究科長を委員とする大学自己点検評価委員会が中心になって本年度一年かけて自己点検評価を推進することとなった。また恒常的な自己点検評価等を行う部所として10月から学長の直轄組織である大学改革室を発足させ、その下部組織として認証評価申請統括室が今回の認証評価申請の作業グループとして置かれることになった。

・淑徳大学 50 年史編纂委員会の発足

平成27年に本学が創立50周年を迎えることから、淑徳大学50年史を刊行することが決定され、5月に学長を委員長とする編纂委員会が発足した。

・卒業生等表彰について

平成19年より「淑徳大学の内外において、大学の発展に対し顕著な功績が認められた者」を対象とする表彰制度が設けられており、選考の結果、今年度は長谷川良信賞として石川紀文氏(社会福祉学部四期生)と湯浅道夫氏(社会福祉学部一期生)を10月18日の千葉キャンパスホームカミングデイにおいて表彰した。

・千葉県社会福祉事業団との包括協定の締結

千葉県社会福祉事業団より 1. 福祉人材養成のメッカにする。2. 地域との教育連携を図る。3. 福祉に関連する情報の共有化を図る。等の事業団の存在意義を求めて本学と連携の協定を結びたいとの申し出があり、3月5日包括協定が締結された。

・新型インフルエンザの流行

夏ごろより新型インフルエンザの爆発的流行があり、入校時の手の消毒やマスク着用による予防対策をはじめとし、授業や実習についての対策が行われ、入試時に受験生に感染者がいた場合の対応も話し合われた。学生に感染者は散発的にみられたが、幸い校舎を閉鎖する措置を必要とするほどの感染拡大にはならず、事なきを得た。

・平成 20 年度淑徳大学年報の発刊

平成21年2月に、平成20年度淑徳大学年報を発刊した。